

## 貝リンガル情報

(アコヤガイ・立神浦 赤崎)

R5-17号

データ提供：(株)ミキモト

問い合わせ先：三重県水産研究所 養殖・環境研究課

TEL 0599-53-0016 FAX 0599-53-2225

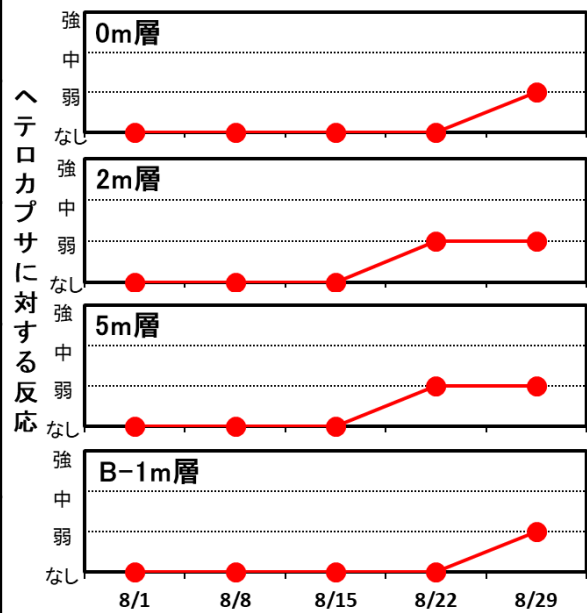
## 【概況（8月29日 0時～8月30日 0時）】

- ・0m、2m、5mおよびB-1m層でヘテロカプサに対する反応『弱』が確認されました。5mおよびB-1mではカレニアに対する反応もみられました。
  - ・ヘテロカプサは、8月28日の同地点での採水サンプル1mLあたり、0mで4細胞、2mで22細胞、5mで14細胞、B-1m層で3細胞が確認されました。
- 【おしらせ】次号は、9月6日（水）の予定です。

## 【今回の測定結果】

水深	ヘテロカプサに対する反応※	備考
0m	弱	8/23(10-13時), 24(7-9時), 25(6-7時), 26(5-7時), 27(7-10時), 29(5-9時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
2m	弱	8/23(12-13時), 24(9-14時), 26(4-10時), 27(6-11時), 28(7-11時), 29(6-13時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
5m	弱	8/24(5-8時), 25(6-11時), 26(4-6時), 28(12-14時), 29(4-9時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。 8/23~29にカレニアに対する反応がみられました。
B-1m	弱	8/24(6-7時), 25(6-13時), 28(13-14時), 29(7-8時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。 8/23~29にカレニアに対する反応がみられました。

## 【直近の状況（5回分）】



※ 指標と殻体運動（波形の例は、WEBに掲載しています。）

強：連続的なスパイク波形と閉殻がみられる。  
⇒ 極度に強いストレスがあり、短時間でへい死の危険がある。中：連続的なスパイク波形がみられる。  
⇒ 強いストレスがあり、長く続くと衰弱・へい死の危険がある。弱：スパイク波形の集中が時折みられる。  
⇒ 貝にストレスがかかりはじめる。垂下層の調整や避難の検討を。

なし：応答なし ⇒ 影響なし。

## ●本紙について

- ・英虞湾における赤潮被害の軽減を目的とし、(株)ミキモトが開発した貝リンガル（二枚貝を用いた生物センサー）の情報を提供しています。
- ・毎週水曜日に発行します。また、臨時で発行することがあります。

## ●貝リンガルについて

- ・二枚貝の殻体運動（殻の開閉）をセンサーで測定し、貝の生理状態（赤潮・貧酸素などの影響）を陸上で把握できます。
- ・英虞湾では、有害プランクトンのヘテロカプサ・サーキュラリスカーマの影響を特に重要視しています。（センサーは、アコヤガイにつけられています。）

## ●センサーの設置場所と水深

- ・湾奥部（立神浦赤崎）の0・2・5・B-1m層に設置しています。
- ・B-1mとは海底上1mで、赤崎では約7mです。

## ●利用上の注意点

- ・海況は、場所・時間・水深で異なります。本情報は湾全体のアコヤガイの生理状態を、必ずしも示すものではありません。
- ・本情報だけでなく「アコヤ養殖環境情報」等で、プランクトンの出現状況や海況を把握し、被害対策をしてください。

